

矛盾の様な眞實

梶井基次郎

青空文庫

「お前は弟達をちつとも可愛がつてやらない。お前は愛のない男だ。」

父母は私によくそう云つて戒めた。

實際私は弟達に對して随分突慳貪であつた。彼等を泣かすのは何時でも私であつた。彼等に手を振り上げるのは兄弟中で事實私一人だつた。だから父母のその言葉は一應はもつともなのであるが私は私のとつてゐた態度以外にはどうしても彼等が扱へなかつた。

私はどちらかと云へば彼等には暴君であつた。然しとにかく弟達はそれの或程度迄には折れ合つて、私對弟等の或る一定した關

係の朧ろな輪廓が出来てゐた。

然しその標準から私は時々はみ出たことをした。——と云ふよりも事實いけないと思ふ様なことをした記憶をもつてゐる。

三年程以前のことだと思ふ。その勘定だと、上の方の弟が十三で、その次が十の時だつた筈である。

その下の方の弟がこんなことを云つて戸外そとから歸つて來た。

「勇ちゃん——（上の方の弟の名）——今そとでよその奴に撲られたんだよ。」

譯をきいて見れば、勇が自轉車につきあたられて、そしておまけに「この間抜け奴。」と云つてその乗つてゐた男に頭を撲られ

たと云ふのである。

私はそれをきくとむら／＼とした。年をきいて見ると四十程の男だと云ふ、私はその男を自轉車からひきずり卸して思ひ切りこらしめてやりたかつた。

私は、氣が弱くて恐らくは抵抗出来なかつた弟がどんなに口惜しく思つてゐるだらうと思つた。そんな奴はどれだけこらしめてやつてもいゝと思つた。そして私は何時のまにか、うんと顔を陰氣にしてしまつてゐた。

然し母はやはり年の功だけのことを云つた。つまり勇にもいけない所があつたにちがひないと云ふ風なことを云ひ出した。

私はそれをもつともだとは思つたが、十三位の家の弟をよその

大人が撲るといふ様なことはどうしても許せないと思つた。

「お母さん！　そう云つてあなたはそれで堪忍出来るのですか。」
と私は母に喰つてかゝつたのを覚えてゐる。私は不愉快で不愉快で堪らなかつたのだつた。

そこへその本人が歸つて來た。顔を見ると悄げかへつてゐる。そして泣いたあとらしく頬がよごれてゐた。私はそのしよぼしよぼした姿を見ると可哀さうには思つたが、なほさら不愉快が増した。

私が問ふと弟は話し話しまた涙をためた。——きいてゐる中にふと私はその話に少し嘘があるのを感じた。勝手のいゝ胡麻化しがある様に思つた。

その弟は常からよく勝手のいゝ嘘を云つた。私はそれがいやで堪らなかつた。

——私はその氣持には純粹に嘘を忌むといふ氣持もあるにはあつたらうが、それよりもつと私に應へるのは弟に私の戯畫カリカチュアを見せられることであつた。

包まず云ふが、私自身はこれでかなりの嘘言家なのである。そして虚榮家の素質も充分持つてゐる。私は自分の卑しい所、醜い所、弱い所をかくすためによく嘘を云つた。

私は自分のこの性格が忌々しくてならないのである。

その思ひ出したくない急所に、弟の淺墓な嘘が強く觸れる。そこを殊更に醜く擴大した私自身のポンチ繪を見せつけられる様な

侮辱を感じる。

私のその氣持にはそれが私の肉親であるといふことも大分手傳つてゐるのだと思ふ。——つまりポンチ繪と云ふよりも本當の私の姿だと思へるためではないかと思ふ。またもう一步進めば——「勇さんは嘘つきだ。兄弟は争へない。あの直ぐ上の兄さんも。」といふ風になつて、あまり明瞭ではなかつた私のその嫌な性格が、弟のそれではつきり世間の人にわかつてしまふといふ懸念が、或は働いてゐるのではなからうか。

やはりこれが肉親の故でもあらうし、永く一緒に暮して來た故でもあらうが、第一は性格の相似から、私には弟の嘘が、その顔付や語調から、手にとる様に——丁度私自身がその嘘を云つてゐ

る様にわかる様に思へるのである。そして事實は十中八九その正鵠を證明してゐる。

そんな譯で私は弟が物を云ふとその話の途中で「それは嘘だ。」と云ひ切つたりすることがある。——こんな無禮なことは弟だからと云つて許さるべきものではない。然し私は不愉快のあまり憎悪さへ募らせて、意地悪くそれを云ふのである。そして弟の話の腰を折つてしまふ。

またあまり堪へ切れなくなると、私はむらむらと前後を忘れて、「馬鹿！ また嘘を云つてゐる。」など、怒鳴りつけずにはゐられなくなる。——つまり私はその時、情ない氣持で歸つて來た弟にこれを浴せかけたのだつた。

「またお前も意氣地なしだ。それで黙つてゐるつてことがあるかい。何故一つでも撲り返さなかつたのだ。」

私は弟の苦しい胡麻化しをその場合許せばよかつたのだつたが、その卑怯な嘘を感じると私は意地悪くなつて、ついそんなつかぬことを云つてしまつたのだつた。一つはあまりの口惜しさから。

「……でも石を一つ投げてやつた。……」

その時私は、その聲の弱さに、また顔の頼りなさに、私の嫌な嫌な、眞赤な嘘の證據を見たのだつた。

私の先程から積つてゐた不愉快は、それに出喰はすと新たに例の不愉快を加へて一時にはづんで來た。そして猛烈なはけ口を求

めた。私はこの壓力で爆發する様に「馬鹿!!」をやつてしまつた。私はこれを思ひ出すと、その時の弟が可哀さうで堪らなくなる。本當にそうだ。

弟はそんなことでも云つて見なければ、あまりに口惜しく、自分がみぢめだつたにちがひない。

私がその時それを信じてやれば幾分かは、彼の無殘に傷けられた心も慰められただらうのに。

私はその時の弟が可哀相でならない。

悪いことをしたと思ふ。

*

*

*

私がその三年程も以前のことを思ひ出したのは、今日往來で子供の喧嘩を見てからのことである。私はその喧嘩を見ていろんなことを思つた。その思ひの辿るまにまにふとその記憶にぶつかったのだつた。

その喧嘩といふのはかうである。

私は學校から熊野神社の方へ歩いてゐた。

雨模様様の空の間から射し出す太陽がいやに蒸暑くてあの單調な路が殊更長く思へた。顔や首から油汗がねつとり滲み出てゐたが、

手拭を忘れて來てゐたので、と云つても洋服の汚れた袖で拭くのはなほのこと氣味がわるく、私はやけ氣味に汗まみれであるいてゐた。晝過ぎだつた。道は小學校の生徒が四五人と中學の生徒が二三人と、そして私だけだつた。埃にまみれたポプラの葉が動かうともしない。

はじめ自分はそれをほかの事だと思つてゐた。——が、それが喧嘩だつた。

一人の運動シャツを着た子供が小學校歸りらしい子供とつかみあつてゐる。中學の生徒が二人程、あまり熱心でもなくそれを留めやうとしてゐる。

歩きながら見てみると、どうやら運動シャツの子供の方が優勢らしく見えた。片方の子供はいかにも弱さうだった。

なんとか云つてシャツの兒が相手の脛のあたりを蹴つた。するとともに一人は横面を撲つた。いかにもそれが頼りなささうで撲つたとは云へない位のものだつた。攻撃のためではなく自分の威嚴のため止むを得ずその形をしてゐる。——撲りながらも心では「もうこらへて呉れ。」と云つてゐる——といふ風に見えた。

一方は毒々しい程積極的だつた。弱い者いぢめをしてゐるにちがひなかつた。

一瞬間私は、私が幼い時経験した無念さや恐怖を、やはりそんなに迫害されてゐる私の姿を憶ひ浮べた。

さきの方は顔を紅潮させてゐて、それが變に歪んでゐた。泣き出しさうにも見えた。然し消極的にせよ一つ一つ報いてゐた。一つに一つ。私はそれがいぢらしくて見てゐられない様な氣がした。もうその上續けさせておき度くなかつた。

とめてやらうと思つて獨でに歩調を速めた時中學生等がやつと彼等をひき離した。

小學生の方は直ぐに、顔を少し伏せる様にして走り去つた。――それも片足だけでけんけんをしつゝ一種踊る様な恰好を身體につけながら。

私はその瞬間そんな恰好をせずにもられないその兒の氣持が、私自身の氣持の様に、ぐんと胸へ來た。

「敗けて逃ぐるのんか。何や、泣てやがる。」とそのシャツの兒がその背後から叫んだ。

そしてそこに立つて見てゐた、その小學生の連れらしい、それもやはり學校歸りらしく鞆を下げた二三人が、獨りで走り去つた友達を追ふともなく、その後からその方角へ歩いて行つた。

——それは時間にすれば僅か二分かそこらのちよつとしたことだつた。

然し私にはそれがびんと響いた。

「男らしさ」への義理立てだけといった風に振り上げられたその兒の弱々しい拳や、歪められた顔や、殊にけんけんで踊る様にした恰好が何度となく眼に浮んで來た。

その兒がいぢらしくて堪らなかつた。

何だかその兒の顔が私の一番末の弟に似てゐる様にも思へた。

「父親のない、母親だけが家に待つてゐるといふ風の兒なのぢやないか。」

そんなことまで空想したりした。

そして蒸暑い天候のことなど忘れてしまつてゐた。

青空文庫情報

底本：「梶井基次郎全集 第一巻」筑摩書房

1999（平成11）年11月10日初版第1刷発行

入力：高柳典子

校正：小林繁雄

2002年11月10日作成

2003年5月11日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.waozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたった

のは、ボランテイアの皆さんです。

矛盾の様な眞實

梶井基次郎

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>